

平成23年度川崎区区民会議第2回子ども部会

日 時：平成23年6月13日（月）18時30分～20時30分

場 所：川崎区役所7階第1会議室

出席者(敬称略)

(1) 委員 3人

朴栄子、石渡勝朗、宮崎とみ子

1. 開会

(事務局)

<会議の成立、会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の遵守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

(朴部会長)

子ども部会では、審議内容がたくさんあるので少し大変だが、ご協力願いたい。「健康推進に関する取組」と「世代間が交流する場の拡充」については、具体的に進んでいるので、この2つから先に検討したいと思う。

(1) 「健康推進に関する取組」について

(朴部会長)

「健康推進に関する取組」であるが、川崎中学校、桜本中学校、川中島中学校から講座の申し込みがある状況であるが、具体的に進みつつあるのか。

(事務局)

具体的な進め方については、これから検討である。現在、地域保健福祉課が動きだしている。

(朴部会長)

講座の具体的な進め方については、地域保健福祉課にやってもらうとして、私たちは講座の実施後に検証しなくてはならない。良いのか、悪いのか、また良ければ次年度に本格実施をしていく必要があると思うが、検証の方法、何を検証するのか検討する必要がある。

アンケートか、やってみてと、課題と次年度から必要かどうか。

(事務局)

検証したいことのエッセンスを挙げれば良いと思う。

(朴部会長)

対象は、地域保健福祉課の職員、学校の先生と学生。内容としては、効果、課題、次年度に向けて。これは課題と同じか。

(副区長)

受講した子どもたちにアンケートするということか。

(朴部会長)

子どもたちへの質問は、受けてみてどうだったか、ということ。地域保健福祉課の職員と学校の先生への質問は、実施してどうだったかという内容でどうか。

(事務局)

地域保健福祉課の職員は、実施主体が地域保健福祉課なのでアンケートを行うのはおかしいと思う。地域保健福祉課が、学校の先生や生徒にアンケートを実施する。そのアンケートを作成する視点をこの部会で検討するような形になると思う。

(朴部会長)

地域福祉課にアンケートをしたいと思ったのは、地域福祉課が取り組んでみて、それをどう評価するかを聞いてみたかった。たとえば、地域福祉課だけで行うのは大変だったなど。

(事務局)

アンケートというより直接職員へヒアリングでも良いと思う。

(朴部会長)

学校の先生や生徒へは、地域福祉課からアンケートを行う。地域福祉課職員については、やってみてどうだったかヒアリングを行うという形が良い。

(副区長)

まずはお話を聞いて、学校の先生や生徒へは、講座を受講してどうだったかをアンケートすることということで、地域保健福祉課が主体で実施する。区民会議としては、地域保健福祉課に対し、どういう項目でアンケートをするかをアドバイスするという形になる。地域保健福祉課は、事業をやった者として効果がどうかということで評価を行う。そして、地域保健福祉課は、この事業の検証を行い、この会議に出してもらうことでどうか。そうすると講座を受けた側の意見と事業の主催者の意見が聞ける。

(事務局)

最終的には、地域保健福祉課が担うことになるのか、地域の方も入れて実施するのか、区民会議がご意見をいただいて働きかけることは可能だと思う。このため、今回は区民会議が意図しているところの内容をアンケートに入れてもらう形である。

(石渡委員)

では、分析するのは、誰がするのか。

(副区長)

区民会議ですべて評価することは難しいと思う。もちろん区民会議ですべてを検証することも可能だと思う。しかし、そうなると専門的な知識も必要となるので、難しいと思う。

(事務局)

提案しているのは区民会議なので、この事業が目的とあっている事業かどうかは検証しなくてはならない。

(朴部会長)

事業を主催する地域保健福祉課の検証を受けて、区民会議では、目的どおりできたかどうかを検証するということか。

(石渡委員)

今日の資料をみると、それぞれの中学校が地域保健課に直接申し込みをするのであろうが、我々としては、もう少しフォローしたいと思う。なぜならば、これらの具体的に申し込んだ中学校は、委員を媒体に申し込んでいるはずである。こここのところが今後評価の分かれ道になるような気がする。

川中島中学校は、たばこ、喫煙の内容で講座を申し込んできたが、我々の意図としては、予防接種の講座を受けてほしいというのがあるのでそれを中学校に伝えている。地域保健福祉課では、中学校からのリクエストをそのままやってしまうと思う。私たちは、これまで議論された意図も含めた講座を受けてほしいと思っている。

(朴部会長)

地域保健福祉課がアンケートを実施し、それを集約・分析したものを区民会議に出してもらい、それを受けて次年度以降続けるかどうかを検討するということよろしいか。どんな内容のアンケートになるかということについては。

(事務局)

アンケート項目は、今日検討しないとスケジュール的に難しいかもしれない。

(副区長)

地域保健福祉課の職員をこの場に呼んでヒアリングをするのも方法の一つである。

(石渡委員)

生徒へは、この講座を聞いて、どのようなところが興味あったか、逆にどんなところがつまらなかったか、今後は、どんな話を聞きたいかという3つは聞いてほしい。みんなつまらなくて、今後何もなければ、これで終わりにになってしまうが。

(朴部会長)

では、この審議課題については、次回にアンケートの項目案が出るということによろしいか。

(2) 「世代間交流する場の拡充」について

(朴部会長)

では、次の議題である世代間交流としてのカラーリングであるが、6月8日に地域振興課、地域保健福祉課、保健福祉サービス課、こども支援室、田島支所の地域振興係、高齢者支援課、私と宮崎委員でカラーリングでどうやったら世代間交流ができるかということ話を話合った。

10月10日に川崎市体育館で市民のスポーツイベントの中にカラーリングが入っているそうである。そこを利用したらどうかということである。田島地区のものをモデルにすることを検討していたが、市の広報の関係上できないが、田島地区にお住まいの人たちを中心にお知らせしたらどうかということであった。やり方としては、来た人がカラーリングをして帰るのか、他に込み交流できる仕組みをつくるか。

会場が、川崎市体育館ということで対象地域が大きくなってしまう。区民会議で検討してきたことは、小さな地域でカラーリングを用いて世代間交流ができる仕組みである。これをどうするか。

(宮崎委員)

先日、新聞でカラーリングの記事があった。中学校でカラーリングをやっているということである。今回、市体育館で開催することは、これはこれで良いPRになると思う。あとは地道な作業で地域で広げていく。それと学校で可能なところは、進めていくべきだと思う。

(朴部会長)

そうすると、カローリングの普及活動になってしまう。我々は、カローリングを広げるのではなく、これを通じて世代間交流の場をつくるということである。地域の中で地道にそういう場をつくっていることが重要だと思う。このため、10月10日の川崎市体育館で開催するイベントで世代間交流をしたということにはならない。小さな地域レベルで行わないと意味がない。

(宮崎委員)

まずは、カローリング大会を身近な場所でやっているよと示していかないといけない。

(石渡委員)

10月10日の目標は、60名。これはプレイヤーである。見学者もほしい。田島だけでなく他の地区にも声をかける必要がある。

(朴部会長)

カローリング大会については、このような形で進めていくことでよろしいか。小さなエリアについては、まずは田島地区で行う形で考えていく。

(石渡委員)

あと宮崎委員がお話しされたことは、小学校、中学校だけでなくこども文化センターもそうか。

(宮崎委員)

地域教育委員会と民協の方でもお話しさせていただきて、浅田小学校の体育館の土曜日が空いているので、そこでカローリングをしているという広報をしたいと思う。まずはカローリングに親しみを持ってもらう必要がある。子どもと大人が一緒になってできる場をつくりたい。

(朴部会長)

お願いしていくということで、関係課や関係者と話したのだが、みんなが一堂に会して、世代間交流を話せたのが良かった。なかなかこのような機会はないと思う。

地域での子育て出会う場所づくりをどうするかということであるが、この川崎区でどのような場所をつくることができるのか、考える場を設けるということが良いのではないかと思う。行政や民間で知恵を出し合うような場をつくるということかどうか。先日の打ち合わせで、いろいろな部署が集まって話し合う場所は少ないと思った。

子どもの居場所をどうするか、世代間の交流をどうするか、各部署に一つ一つまわって話すのではなく、一緒に集まって話すことが大事だと思う。

(宮崎委員)

地域でともに育つ、世代が違った人が出会わないとうまくいかないと思う。こういう話し合いをする場所、機会が必要である。

(事務局)

そういう意味でカラーリング打ち合わせは有効だったか。

(朴部会長)

そうだと思う。

(事務局)

何かきっかけがないと集まりにくいと思う。

(宮崎委員)

そのカラーリングのイベントの時に、こども文化センターや母親クラブなどの団体に声をかけると思うが、その中で次のステップに持っていけるような話し合いの場ができると良い。

(副区長)

委員のみなさまのご意見をお伺いしていて、一堂にいろいろな関係者の意見が聞けて良かったということで、それを実際に市民、区民の間でもできれば良いということであるが、それが区民会議だと思う。区民会議には、子ども関係、高齢者関係など、さまざまな母体を持つ方々が集まっている。しかし、区民会議は、会議室で行うので、これと同じようなものを地区ごとにあれば良いと思う。そこの地域の人がお互いに顔をを見聞きして、いつでも話を持てる環境が必要ということだと思う。そういう意味で、カラーリングを通じて何かできないかということだが、地区ごとにカラーリング大会があるので、集まりませんかを声をかけ、何度かやってみたらどうか。ここにある老人クラブであり、民生委員であり、ここで抜けているのが中高生関係だと思う。ここにあるような世代間交流が実現すると思う。

あと、いろいろな人が集まって重要なのは、コーディネータ役の存在。これは、地域ごとに違って良いと思う。しかし、そのコーディネータに負担をかけすぎてはいけない。

(事務局)

取りまとめ役に担当の係長の名前が挙がっているが、どこでもというわけにはいかない。それぞれ地域ごとにコーディネータ的な存在が必要になる。仕組みを地域で確立していくようなことを後押ししていくことが重要だと思う。

(3) 「地域の人と子育て中の親が会う場所づくり」について

(朴部会長)

カローリングを通じた場所づくりもあるが、子育て中のお母さんがいろいろなところへ出入りできるような地域をつくっていかうというところもあるので、そういう場所をどういう風につくっていくか考える必要がある。たとえば町内会館がいつも開いていてくれるとか、そういうことをできる町会とできない町会もある。こども文化センターは、子育て中の方が入れるシステムはできているが、子育て中のお母さんと子どもたちがどういう風につきあうか。こども文化センターといこいの家が同じ建物にありながらどういう風と一緒にやれるか、など、話し合う場をどうつくれるかが問題。

(副区長)

子どもがいこいの家に行くことは、想像できるか。

(朴部会長)

そうでなく、子育て中のお母さんがいこいの家に入出入りできるかということ。

(副区長)

子育て中のお母さんであるが、子どもの年齢をどこまでとするかを考えなくてはならない。

(朴部会長)

子育て中の親が孤立していることを地域の中でいろいろな人の出会いがほしいということで、1番は子育て中の親が地域の人と出会うということで、今は核家族が多いので、地域の人と出会えることでご近所づきあいができないかということで、世代間交流と違う。

(副区長)

そうすると、こども文化センターへいろいろな人が来られるような仕組み作りでよいのではないか。

(朴部会長)

それでも良いと思う。たとえば、こども文化センターも憩いの家も利用できる人が決まっているので。

(副区長)

こども文化センターといこいの家は、公共施設である。また町内会館は、民間の施設なので、検討の仕方が変わってくると思う。

(朴部会長)

だから、関係部署の人が集まって、一緒に検討できないかということである。

(石渡委員)

我々の発想の原点は、公園にはいろいろな規制があって何もできないので、それを打破できないかということである。こども文化センターやいこいの家についても同じでいろいろ規制があるので打破できないか。だから、町内会館もあるだろうし、いろいろな場所がある。地域で活用できるものは活用したい。それへの呼びかけである。それに係る部署の人たちに呼びかけて集まって、議論できないかということである。

(朴部会長)

子育て中の親が出会うことについては、地域にいろいろな団体があると思うのだが、特に元気な高齢者と一緒に何かできないか、また、今、実際にやっている地域があると思うが、そういうところと一緒に話すことができないかを調査審議する方向でどうか。こども文化センターといこいの家では、1年に1回交流会をやっていたかと思うが。

(事務局)

あまりそういう話を聞かないが。地域ごとにピンポイントでやっているのか。

(副区長)

利用者がその交流イベントの参加することはできると思うが、フリーに行くことはできないと思う。老人いこいの家設置条例を変えないといけない。こども文化センターにも設置目的があるようにいこいの家にもある。関係機関が集まってもできることとできないことがある。その範囲なら集まって検討できると思う。

(朴部会長)

そういう集まりさえ今はないので、そのようなことも含めてできるような集まりが必要。たとえば子どものことについては子どもに係る部署しか集まらない。そうではなく老若男女に係る部署の人が集まって、子育て中のお母さんの地域で出会う場所について話し合える仕組みが必要である。

(副区長)

それは、こども文化センターで地域の人が集まって話せば良いと思う。今あるこども文化センターがあり、区の中ではこども支援室があるということが最もうまくいくと思う。

(朴部会長)

地域の中で子育て中のお母さんがいろいろな人に会えるのが重要である。地域の方は、こども文化センターや子育て支援センターへは来ない。いろいろな地域の人たちが集まるところに子育て中のお母さんが参加できるような仕組みを検討する必要がある。たとえば、デイ銭湯があるが、そこに子育て中のお母さんも入れてくれると良い。一つの地域で始めれば他の地域も始めると思う。

(副区長)

たまたまデイ銭湯の話が出たが、これは補助金が出ているので、対象が高齢者になってしまう。利用したいということであれば、デイ銭湯をやっていない時間帯に地域の人と関わる仕組みをつくる必要がある。

(事務局)

幸区では日赤が、お母さんがお風呂に入っている間に子どもを見ているということをやっている。しかし、あまり広がりがなく、リピーターが多いらしい。

(宮崎委員)

本当は、地域の町内会が本気でやれば良いと思う。子育て中の若い世代は、他から引っ越してきた人が多い。このため、町会になじめない、かかわりが持てない人が多い。昔は、母親クラブがその機能をもっていたが、低迷している。このため、町内会が何かきっかけをつくると良いと思う。

(朴部会長)

子育て中のお母さんが地域にいかに溶け込むかなので、子どもの部署だけが関わるのではなく、いろいろな部署が関わる必要があると思う。

(石渡委員)

町内会ひとつとっても課題が大きい。このため、できそうな町内会、こども文化センターなどを発掘し、声を掛けたらどうか。このため、声をかけて集まりに来てもらう。このため、次回までにどこかでやってくれそうな方を探してみる。そして声をかけてみるというのはどうか。また、そこに区民会議委員も入って一緒に検討する。

(副区長)

石渡委員が言われたように、やってくれそうな町内会長さん、こども文化センターのを見つけて声をかけることが現実的だと思う。

(朴部会長)

具体的には、石渡委員がおっしゃったやり方で良いと思うが、区民会議委員には任期がある。このため、行政的なシステムにして取組べきだと思う。

(副区長)

石渡委員がおっしゃったのは、ピンポイントでやるということだったので、それを行政の仕組みにすることは難しい。組織を使ってやっていくのか、ピンポイントで行うのかということを整理する必要がある。

(石渡委員)

最初のきっかけはピンポイントであるが、最終的にはみんなに理解していただき、組織で取り組むようにすることが必要だと思う。たとえば、老人会で言えば、理解をいただける老人会長の声をかけ、最終的には老人会全体で取り組んでくれるようにもっていく必要がある。

(朴部会長)

子育て中の親が会うことについては、今年度中にプロジェクト会議を持とうということで良いか。

(事務局)

プロジェクト会議となると、誰が招集するかが難しいと思う。

(石渡委員)

誰が招集をやるということよりも、集まって少し話してみようということで良いのではないか。

(事務局)

実際に子育て中の親からのニーズがあるかどうか把握する必要があると思う。町会長がいよいよと言っても、実際に必要性を感じている人がいるかどうか。

(石渡委員)

まずはニーズの把握は必要だと思う。

(事務局)

このような話し合いは、地域ごとに開催するべきである。たとえば、大師地区と田島地区が一緒に話しても状況が違うのでまとまらないのではないか。

(副区長)

やってみるといいのはいいと思う。仕組みをつくるころまでは難しい。

(石渡委員)

それは地域ごとにやるということではいいのではないか。

(事務局)

第3期区民会議が終わるまでに1地区でもできればいいと思う。

(朴部会長)

それぞれの地域で子育て中の親を対象とした出会いの場の集まりをやっていみる。できたところで報告をし合う。そして他の地域に広げるといってどうか。

(石渡委員)

区民会議委員が、子育て中の親にニーズがあるかの実態調査と小さな地域の分析を行うことが必要。

(4) 「こころの居場所づくり・不登校支援」について

(朴部会長)

普段、私たちはあまり不登校のことを課題にしていらないが、子どもたちからのデータをみるといじめや不登校のことを何とかしてほしいといった意見がたくさん出されている。資料を読んで大人たちも何かしなくてはいけないと思う。私たち以外の大人たちも課題であるという認識をもってもらえるようにする必要がある。

(事務局)

参考資料6、7にも教育委員会がまとめている不登校児童への支援や取組をまとめているので、少し読んでいただきたい。あと区の担当課長から言われたのだが、不登校の理由は、300人いたら300通りあると言われている。このため、みんな一緒に考えないでほしいということである。不登校とひとくくりするのはよくない。そんな中で何ができるのか考えていくしかないと思う。

(朴部会長)

不登校問題は、やればやるほど我々が無知だと気付く。ただ、話題にしないと不登校児や不登校児を抱える親がいなくなってしまうので、どんなことがあるのかということを探し、言っていく必要がある。また、その中に旭町の方との出会いを実現をした方がいい。

(副区長)

今日お出ししている資料の他に市民・こども局で行っている調査のデータも入手することができる。また、川崎区のデータがほしいのであれば、お出しすることもできる。このようなことを区民会議の報告として紹介されるだけでも違うと思う。

(朴部会長)

この資料を読んで次に進める、あと旭町の関係者にヒアリングをするという方向性で良いか。

(事務局)

質問を事前に出してもらえると答えやすいということである。

(5) 「自由に思いきり遊べる場所づくり」について

(朴部会長)

「自由に思いきり遊べる場所づくり」については、プレーパークをつくるのではなく、地域の公園を子どもたちがどれだけ使っているのかを把握し、どんなことができそうかということを考えていこうという方向性になっていると思う。

今日の資料は、公園で禁止されている事項、どんなことができるか。あとプレーリーダーという存在があって、そういうことを踏まえて深めていきたいと思う。

これも地域教育会議と話し合いを持つ方向で良いか。

(事務局)

話し合う内容を明確にするべきである。

(朴部会長)

私たちは、子どもたちが自由に遊べる公園が必要だと思っているが、地域教育会議としてどう思っているかというテーマで話し合いたい。

(事務局)

区民会議も何を考えているかしっかり持ったうえで、話し合いに臨まないと、話し合う内容が見えてこないと思う。

(朴部会長)

次回、旭町のこともあるので、地域教育会議に何を聞きたいのか検討し、その後に話し合いをしたいと思う。

2. その他

(朴部会長)

この部会は、次回は9月である。しかし、審議事項がたくさんあるので、9月では難しいと思う。前倒しに行くことはどうか。

⇒次回は、7月26日（火）13時～で確認された。

以上